

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

救急救命学科

授業科目 (科目ID)	血液・内分泌・代謝性疾患 21e211		担当教員 (実務経験)	雀地 洋平 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 看護師として院内業務に従事し、当該科目の教育を行う別紙1参照		
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	10	時間数	20時間
授業目的	・救急救命士に必要な内分泌・代謝・泌尿器・血液・免疫系疾患を理解する。					
到達目標	・内分泌、代謝、泌尿器疾患のある傷病者への対応ができる。					
テキスト・参考図書等	・改訂 第10版 救急救命士標準テキスト ・配付資料 等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	80%	定期試験80% 確認テスト20%			
	レポート	%				
	小テスト	20%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の留意事項	レポートを課す場合がある。不明点は、積極的に質問すること。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	内分泌・栄養系	疾患の理解に必要な基礎知識、観察と判断、緊急度判定			
	2	疾患の理解①	甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、副腎機能異常			
	3	疾患の理解②	肥満、るいそう、ビタミン欠乏症			
	4	代謝系疾患	疾患の理解に必要な基礎知識、観察と判断、緊急度判定			
	5	疾患の理解③	糖尿病、低血糖			
	6	疾患の理解④	その他の代謝異常			
	7	血液・免疫系疾患	疾患の理解に必要な基礎知識、観察と判断、緊急度判定			
	8	疾患の理解⑤	血液系疾患			
	9	疾患の理解⑥	免疫系疾患、アナフィラキシー			
	10	まとめ	総合問題演習 解説			
	11					
	12					
	13					
	14					
15						

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

救急救命学科

授業科目 (科目ID)	小児・新生児・高齢者疾患 21e212	担当教員 (実務経験)	北川 正博 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 全国の救急救命センターにおいて救急医として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う 別紙1参照		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	10	時間数	20時間
授業目的	・成人期以外の発育について学び、救急活動での現場診断に役立てる。				
到達目標	・成人期以外の発達段階における特徴を理解する。・新生児、小児に特有の疾患を理解する。・高齢者に特有の疾患を理解する。				
テキスト・参考図書等	・改訂 第10版 救急救命士標準テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	定期試験80% 確認テスト20%		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	%			
その他	%				
履修上の留意事項	レポートを課する場合がある。不明点は、積極的に質問すること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	小児・新生児の解剖生理	疾患の理解に必要な基礎知識		
	2	小児の救急疾患①	小児のおもな疾患と観察・判断①		
	3	小児の救急疾患②	小児のおもな疾患と観察・判断②		
	4	新生児の救急疾患	新生児のおもな疾患と観察・判断		
	5	小児・新生児の心肺蘇生	新生児・小児の心肺蘇生理論		
	6	高齢者の救急①	疾患の理解に必要な基礎知識		
	7	高齢者の救急②	おもな疾患と観察・判断①		
	8	高齢者の救急③	おもな疾患と観察・判断②		
	9	高齢者の救急④	地域医療について		
	10	まとめ	総合問題演習、解説		
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

授業科目 (科目ID)	筋骨格・皮膚・感覚器疾患 21e213	担当教員 (実務経験)	岡本 博之 救命救急センターにおいて救急医として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う 別紙1参照		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	10	時間数	20時間
授業目的	・救急救命士に必要な感覚器・口腔・整形外科系疾患を理解する。				
到達目標	・感覚器・口腔・整形外科系疾患に関する病態生理とそれに対する救命処置について説明ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂 第10版 救急救命士標準テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	定期試験80% 確認テスト20%		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	レポートを課す場合がある。不明点は、積極的に質問すること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	筋・骨格系疾患	疾患の理解に必要な基礎知識		
	2	筋・骨格系疾患の理解①	脊椎疾患		
	3	筋・骨格系疾患の理解②	関節疾患、筋疾患		
	4	皮膚疾患	疾患の理解に必要な基礎知識		
	5	皮膚疾患の理解	皮膚・軟部組織感染症、アレルギー性疾患		
	6	歯・口腔系疾患	疾患の理解に必要な基礎知識、主な疾患と観察・判断、主な疾患		
	7	歯・口腔系疾患の理解	骨髄炎、扁桃周囲炎、顎関節脱臼		
	8	眼の疾患	視覚に関する解剖生理、主な疾患		
	9	まとめ 筋・骨格系疾患	総合問題演習、解説		
	10	まとめ 皮膚・感覚口腔系疾患	総合問題演習、解説		
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

救急救命学科

授業科目 (科目ID)	産婦人科疾患 21e214	担当教員 (実務経験)	佐藤 真紀子 看護師、助産師として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	10	時間数	20時間
授業目的	・正常分娩と異常分娩について理解する。・婦人科特有の病態について理解する。				
到達目標	・症状、所見から病態を鑑別し、適切な救急処置が行える。				
テキスト・参考図書等	・改訂 第10版 救急救命士標準テキスト ・配付資料 等				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	定期試験80% 確認テスト20%		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	レポートを課す場合がある。不明点は、積極的に質問すること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	産婦人科基礎	産婦人科系解剖生理、性功能、ホルモン、妊娠の成立と経過		
	2	産婦人科基礎	母体と胎児の変化		
	3	産婦人科基礎	産科に関する統計と生じている問題		
	4	妊娠中の異常	子宮外妊娠、早産、流産、胎状奇胎、妊娠高血圧、他		
	5	分娩	正常分娩の経過、正常分娩第I期～第III期		
	6	分娩	呼吸法、異常分娩(破水、過強陣痛、子宮破裂)		
	7	分娩のケア等	介助方法①(実習)		
	8	分娩のケア等	介助方法②(実習)		
	9	異常産辱	子宮内反、異常出血、shock、DIC、産褥期の異状		
	10	まとめ	実践問題演習、解説		
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

救急救命学科

授業科目 (科目ID)	精神障害 21e215	担当教員 (実務経験)	足立 卓也 医療機関において医師として勤務し、当該科目の教育を行う 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	8	時間数	16時間
授業目的	・精神疾患と精神障害患者について理解する。				
到達目標	・精神障害者への対応ができる。				
テキスト・ 参考図書等	・配付資料 等				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80 %	定期試験80% 確認テスト20%		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の 留意事項	講義とビデオ教材を使用。居眠り厳禁！不明点は、積極的に質問すること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	精神科総論	精神障害・総論		
	2	内因性精神病①	統合失調症①		
	3	内因性精神病②	統合失調症②		
	4	内因性精神病③	気分障害①鬱病		
	5	内因性精神病④	気分障害②躁鬱病		
	6	心因性精神障害①	神経症		
	7	心因性精神障害②	人格障害		
	8	その他	心因・外因性精神障害、精神科入院、救急対応、国試対策		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

救急救命学科

授業科目 (科目ID)	外傷各論・小児・高齢者 21e216	担当教員 (実務経験)	三上 剛人 救命救急センターにおいて看護師として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う 別紙1参照		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	10	時間数	20時間
授業目的	・人体部位別の外傷損傷がわかり、対処できる知識を備える。・小児、高齢者に特有の外傷疾患を理解できる。				
到達目標	・各損傷部位に対する処置、重症度・緊急度の判断、小児、高齢者に特有の外傷についての説明ができる。				
テキスト・参考図書等	・改訂 第10版 救急救命士標準テキスト ・JPTECガイドブック				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	定期試験80% 確認テスト20%		
	レポート	%			
	小テスト	20%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	レポートを課す場合がある。不明点は、積極的に質問すること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	外傷総論	疫学と外傷システム、受傷機転		
	2	外傷総論	外傷の病態生理、JPTEC		
	3	外傷各論	頭部外傷、頭部外傷		
	4	外傷各論	脊椎・脊髄外傷		
	5	外傷各論	胸部外傷、腹部外傷		
	6	外傷各論	骨盤、四肢外傷、皮膚・軟部組織損傷		
	7	外傷各論	小児高齢者外傷、妊婦外傷、スポーツ外傷		
	8	外傷各論	熱傷		
	9	その他の外傷	電撃症・化学損傷		
	10	その他の外傷	縊頭・刺咬傷		
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

授業科目 (科目ID)	中毒各論・環境障害 21e217		担当教員 (実務経験)	岡本 博之 救命救急センターにおいて救急医として救急医療に従事し、当該科目の教育を行う 別紙1参照		
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	10	時間数	20時間
授業目的	・中毒の原因、病態、対処方法について理解する。・環境障害が人体に及ぼす影響と、対処方法について理解する。					
到達目標	・中毒傷病者への対応ができる。・環境障害傷病者への対応ができる。					
テキスト・参考図書等	・改訂 第10版 救急救命士標準テキスト ・配付資料 等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	80%	定期試験80% 確認テスト20%			
	レポート	%				
	小テスト	20%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の留意事項	レポートを課す場合がある。不明点は、積極的に質問すること。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	中毒①	中毒総論			
	2	中毒②	中毒各論①(医薬品中毒・農薬中毒・工業薬品中毒)			
	3	中毒③	中毒各論②(ガス・アルコール・自然毒・家庭用・乱用薬物)			
	4	異物、救急隊活動	気道異物、チョークサイン、現場活動での注意点			
	5	環境障害①	溺水・熱中症・低体温・放射線障害			
	6	環境障害②	高山病・減圧障害・酸素欠乏・凍傷・紫外線障害			
	7	環境障害での救急隊活動	現場活動での注意点			
	8	実践問題演習 中毒	国家試験模試から抜粋した中毒に関する問題を解く			
	9	実践問題演習 環境障害	国家試験模試から抜粋した環境障害に関する問題を解く			
	10	まとめ	総合問題演習、解説			
	11					
	12					
	13					
	14					
15						

授業科目 (科目ID)	応急処置Ⅱ 21e218		担当教員 (実務経験)	阿部 綱一 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う 別紙1参照		
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	実習		授業回数(1回90分)	45	時間数	90時間
授業目的	・傷病者の的確な観察結果に基づく適切な救急救命処置を実施する。いずれも、継続観察の重要性を理解する。					
到達目標	・特定行為を理解し処置ができる。・MC体制のプロトコルを理解し実践できる。 ・救急技術を完全に習得し隊員間の連携活動ができる能力を養う。・救急活動時の判断能力を養う。					
テキスト・参考図書等	・改訂 第10版 救急救命士標準テキスト ・別途配付資料					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	80%	実技試験80% 効果測定20%			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	20%				
履修上の留意事項	別紙授業計画に基づき小グループ方式で実習を行う。 各項目の最終で効果測定を実施し、スキルの成熟度を測る。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	特定行為	器具気道確保の適応と手順(1年次の復習)			
	2	特定行為	器具気道確保の適応と手順(1年次の復習)			
	3	特定行為	器具気道確保(効果測定)			
	4	特定行為	器具気道確保(効果測定)			
	5	特定行為	静脈路確保の適応と手順、ルート作成			
	6	特定行為	ルート作成(効果測定)			
	7	特定行為	ルート作成(効果測定)			
	8	特定行為	静脈路穿刺の危険リスクと針刺事故について			
	9	特定行為	静脈路穿刺			
	10	特定行為	静脈路穿刺			
	11	特定行為	ルート接続と滴下調整			
	12	特定行為	ルート接続と滴下調整			
	13	特定行為	静脈路穿刺、ルート接続、滴下調整(効果測定)			
	14	特定行為	静脈路穿刺、ルート接続、滴下調整(効果測定)			
15	特定行為	アドレナリンの適応と危険リスク				

	回数	履修主題	履修内容
履修主題・履修内容	16	特定行為	三方括栓操作とアドレナリン投与方法
	17	特定行為	三方括栓操作とアドレナリン投与(効果測定)
	18	特定行為	気管挿管で使う資機材について、気管挿管の適応
	19	特定行為	気管挿管の準備、手順について
	20	特定行為	気管挿管準備
	21	特定行為	気管挿管準備
	22	特定行為	気管挿管準備(効果測定)
	23	特定行為	気管挿管の手順
	24	特定行為	気管挿管の手順
	25	特定行為	気管挿管の手順
	26	特定行為	気管挿管の手順(効果測定)
	27	特定行為	気管挿管の手順(効果測定)
	28	特定行為	血糖測定/ブドウ糖投与の適応とリスクについて
	29	特定行為	意識障害の鑑別方法と測定準備
	30	特定行為	意識障害の鑑別方法と測定準備
	31	特定行為	血糖測定の手順
	32	特定行為	血糖測定の手順
	33	特定行為	意識障害の鑑別から血糖測定(効果測定)
	34	特定行為	意識障害の鑑別から血糖測定(効果測定)
	35	特定行為	ショック前輸液の適応とリスク
	36	特定行為	ショックの判断と輸液準備
	37	特定行為	ショックの判断と輸液準備
	38	特定行為	ショックの判断と輸液(効果測定)
	39	特定行為	ショックの判断と輸液(効果測定)
	40	特定行為	実践想定隊活動
	41	特定行為	実践想定隊活動
	42	特定行為	実践想定隊活動
	43	特定行為	実践想定隊活動
	44	特定行為	実践想定隊活動
	45	特定行為	実践想定隊活動

2023年度

吉田学園医療歯科専門学校

救急救命学科

授業科目 (科目ID)	総合シミュレーション I 21e219		担当教員 (実務経験)	阿部 鯛一 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 救急救命士として救急業務に従事し、当該科目の教育を行う 別紙1参照	
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	必修	単位数 3単位
授業形態	実習		授業回数(1回90分)	68	時間数 135時間
授業目的	・救急活動における多種多様な手技及び現場での行動要領の理解と習熟を目標とする。				
到達目標	・救急救命士としての様々な現場活動能力及び手技を習得し実践できる。				
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	実技試験80% 効果測定20%		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	多種多様な救急現場に対応するために、バリエーション豊富な実習を実施する。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	防災訓練等参加①	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、学会聴講		
	2	防災訓練等参加②	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、学会聴講		
	3	防災訓練等参加③	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、学会聴講		
	4	防災訓練等参加④	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、学会聴講		
	5	防災訓練等参加⑤	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、学会聴講		
	6	防災訓練等参加⑥	防災訓練への参加及び消防関係施設見学、学会聴講		
	7	標本館見学①	標本館見学		
	8	標本館見学②	標本館見学		
	9	外傷初療①	JPTEC		
	10	外傷初療②	JPTEC		
	11	外傷初療③	JPTEC		
	12	外傷初療④	JPTEC		
	13	心電図①	心電図の読み取り、正常波形		
	14	心電図②	徐脈性不整脈		
15	心電図③	頻脈性不整脈			

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	16	心電図④	期外収縮
	17	心電図⑤	実践問題演習、解説
	18	心電図⑥	12誘導心電図
	19	在宅医療①	在宅医療とは
	20	在宅医療②	在宅医療の実際
	21	DNAR①	DNARとは
	22	DNAR②	DNARとは
	23	CPAプロトコール①	器具気道確保 (LT・LM)
	24	CPAプロトコール②	器具気道確保 (LT・LM)
	25	CPAプロトコール③	器具気道確保 (LT・LM)
	26	CPAプロトコール④	器具気道確保 (LT・LM)
	27	CPAプロトコール⑤	器具気道確保 (気管挿管)
	28	CPAプロトコール⑥	器具気道確保 (気管挿管)
	29	CPAプロトコール⑦	器具気道確保 (気管挿管)
	30	CPAプロトコール⑧	器具気道確保 (気管挿管)
	31	CPAプロトコール⑨	静脈路確保/アドレナリン
	32	CPAプロトコール⑩	静脈路確保/アドレナリン
	33	CPAプロトコール⑪	静脈路確保/アドレナリン
	34	CPAプロトコール⑫	静脈路確保/アドレナリン
	35	低血糖①	ブドウ糖投与
	36	低血糖②	ブドウ糖投与
	37	低血糖③	ブドウ糖投与
	38	低血糖④	ブドウ糖投与
	39	効果測定①	各プロトコールの効果測定
	40	効果測定②	各プロトコールの効果測定
	41	効果測定③	各プロトコールの効果測定
	42	効果測定④	各プロトコールの効果測定
	43	効果測定⑤	各プロトコールの効果測定
	44	効果測定⑥	各プロトコールの効果測定
	45	CBL①	脳神経
	46	CBL①	脳神経
	47	CBL②	循環器
	48	CBL②	循環器

履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容
	49	CBL③	呼吸器
	50	CBL③	呼吸器
	51	CBL④	消化器
	52	CBL④	消化器
	53	CBL⑤	内分泌
	54	CBL⑤	内分泌
	55	CBL⑥	代謝
	56	CBL⑥	代謝
	57	CBL⑦	泌尿器
	58	CBL⑦	泌尿器
	59	CBL⑧	筋・骨格系
	60	CBL⑧	筋・骨格系
	61	CBL⑨	血液/免疫系
	62	CBL⑨	血液/免疫系
	63	CBL⑩	環境
	64	CBL⑩	環境
	65	雪山救助訓練①	雪崩救助を想定した実施訓練
	66	雪山救助訓練②	雪崩救助を想定した実施訓練
67	雪山救助訓練③	雪崩救助を想定した実施訓練	
68	雪山救助訓練④	雪崩救助を想定した実施訓練	

